1月の道内景況　情報連絡員レポート

収益状況はわずかに上向くも　景況感、売上高は落ち込み　厳しい経営状況続く

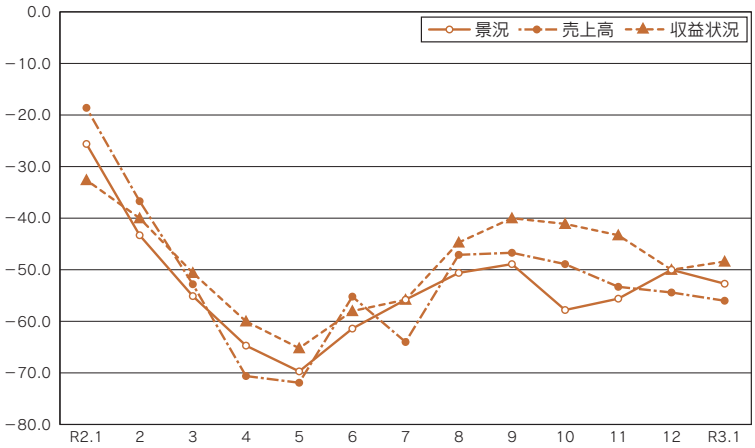
概　況

全業種の主要DIの推移では、「収益状況」が前月比で若干改善した一方、「売上高」は昨年10月から4ヶ月続落、「景況」は上昇基調から一転して悪化した。

業種別に見た比較では、製造業では「雇用人員」を除く全項目で回復に転じたものの、非製造業は「販売価格」以外の全項目が落ち込み、対照的な状況がうかがえる。

1月の情報連絡員報告によると、新年行事等の中止に悪天候が重なり、消費マインドが一段と冷え込んだことで、宿泊業や飲食・サービス業を中心に業績悪化に拍車がかかる結果となった。巣ごもりによる需要増よりも経済活動の鈍化を受けた需要減のインパクトが大きく、多くの業種で売上や景況感を押し下げる要因になっている。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
業界の景況	△50.0	△52.7	△2.7 ↘	△56.3	△51.5	4.7 ↗	△46.6	△53.4	△6.9 ↘
売上高	△54.4	△56.0	△1.6 ↘	△59.4	△54.5	4.8 ↗	△51.7	△56.9	△5.2 ↘
収益状況	△50.0	△48.4	1.6 ↗	△62.5	△45.5	17.0 ↗	△43.1	△50.0	△6.9 ↘
販売価格	△12.2	△9.9	2.3 ↗	△12.5	△12.1	0.4 ↗	△12.1	△8.6	3.4 ↗
取引条件	△11.1	△15.4	△4.3 ↘	△12.5	△12.1	0.4 ↗	△10.3	△17.2	△6.9 ↘
資金繰り	△23.3	△24.2	△0.8 ↘	△31.3	△27.3	4.0 ↗	△19.0	△22.4	△3.4 ↘
雇用人員	△20.0	△23.1	△3.1 ↘	△15.6	△21.2	△5.6 ↘	△22.4	△24.1	△1.7 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・観光客による土産物・外食需要は見込めないが、巣ごもり需要で家庭でのニーズは回復しつつある。（水産食料品／全道）
・道内企業の昨年 1 月から 12 月まで 1 年間の累計出荷量は、味噌が前年対比 96.5%、醤油は前年対比 93.3%だった。コロナ感染拡大による業務用の落ち込みが大きく影響した。味噌の特売の売価に下落傾向が見られる。（味噌・醤油／全道）
・1 月は新年行事やイベントが中止になり、宿泊業や飲食・サービス業を中心に業績悪化に拍車がかかる結果となった。飲料水は、巣ごもりによる需要増よりも経済活動鈍化を受けた需要減の方が大きく、トータルとして動きは鈍かった。（飲料／全道）
・製材、原木市況ともにカラマツ保合、エゾ・トドマツ保合。カラマツ原木は製材受注が徐々に回復しつつあり、多少荷動きがある。エゾ・トドマツ原木も製材工場の製品在庫調整が進み上向いている。製品受注は地域差はあるが緩やかな回復基調にあり、原木の不足感が出てきている地域もある。紙原料は、紙需要は落ち込んでいるものの、漫画本の用紙など物によっては需用がある。木質バイオマス原料は順調に集荷されている。酪農地域ではおが粉原料用の丸太の確保が続いている。（一般製材／全道）
・受注状況に好転は見られず、前年比 85%程度で推移している。（一般製材／中川郡）
・1 月の生コン出荷量は前年同月比 97.3%の約 182 千 m^3。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・空知地域では大雪の影響で設備の稼働が昨年より増加し、売上・収益ともに昨年比増加した。国管理河川での河川法第 25 条による砂利採取及び原石確保は、大雪と寒さで計画どおり進んでいない。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・1 月の売上は昨年同月比で大幅減となった。絶対的な物件数の減少が影響した。昨年末から新築物件情報が少なくなり、工事の見積依頼の件数もほとんどない状況。コロナの影響で先行きに不安を抱いている業者が多く見受けられる。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・水道関連は冬季の閑散期入りで前年並み。海外向け建設機械関連は 10%ダウン、一般・産業機械関連は 5%ダウンした。自動車向けは順調。（銑鉄鋳物／全道）
・コロナの影響で新造船の発注低迷が長期化し、手持ち工事量の減少が続く室蘭製作所では函館造船所向け新造船ブロック製作が無くなることが正式発表され、室蘭製作所は夏から過剰人員が出るのは避けられない状況にある。これまでの年間 6 隻建造を 4 隻建造に減らすため、函館造船所だけでの建造が可能になったためで、今後室蘭製作所は修繕船、橋梁陸械の 2 本柱となるが、仕事量不足による売上減少、雇用人員（造船従事者）調整等の対策が早急に必要になると思われる。（金属製品／函館）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・コロナ対策で在宅勤務等が浸透した結果、事務機器・空調などのオフィス設備、靴やバッグ、文房具等ビジネス関連商品の落ち込みが大きくなっている。靴ではビジネス用からカジュアル商品へ消費者の需要が変化しており、結婚式等イベントの減少を受けて、百貨店から路面店までフォーマル品の売上は半減した。生活必需品は、在宅需要の増加でスーパー・ドラッグストア等への卸売りは順調。その他商品は横ばい。組合の貸会議室、展示場はキャンセルが相次ぎ、例年の 1 ～ 2 割程度の利用率となっている。（各種商品／札幌）
・出張や夜の会食などはいまだ自粛状態が続いている。組合では、傘下の組合員に対して見舞金として商品券の配布を検討している。（各種商品／帯広）
・1 月の組合員の青果物買上高は前月比で 3 億円以上減少した。要因として、年末は正月用食材の需要増加による仕入が増えること、正月用高級食材の購入が増すこと、12 月下旬の青果物の高値傾向で仕入単価が増大したことが挙げられるが、毎年 1 月は消費も落ち込むため例年通りの結果といえる。今回はコロナ禍で新年会が各所で中止された影響も大きいと思われる。道内観光地でコロナ感染者が増加しており、今後の観光需要向けの青果流通の減少が懸念される。（野菜・果実／札幌）
・スーパーやドラッグストアと取引の多い菓子卸の業績は順調だが、外出自粛や節約志向の影響で観光関連業界との取引が多い企業は厳しい経営が続いている。（菓子／全道）
・自粛傾向に悪天候も重なり消費マインドは冷え切っている。業種別の売上では、食料品が増加し、家電量販店・ドラッグストア・ホームセンター・自動車関連は比較的堅調な一方、衣料品は大幅に減少、旅行・冠婚葬祭・飲食は激減した。キャッシングも同様に減少した。（各種商品／旭川）
・営業日数の少なさに加え、外出自粛要請や GoTo トラベル中止で地元客、観光客ともに激減し、時化により生魚の入荷も少なく売上が低迷した。市独自の緊急事態宣言を受けて毎月の月末特売日の入場者数は通常営業日並みだった。（各種商品／小樽）
・1 月取扱高は、コロナの影響で前年比 85%と厳しい結果になった。都市部でのコロナ感染拡大は地方都市の景況感にも多大な影響を及ぼしている。中心商店街でも少しずつ廃業する店舗が出てきている。特に飲食店や観光施設は影響が大きく、例年であれば忙しくなる時期のためより一層厳しさを感じる。（各種商品／苫小牧）
・市内大型店 5 店舗の売上（令和 2 年 1 ～ 12 月）は前年比 7.2%減の 187 億円と、現行の 5 店舗体制になって初めて 200 億円を割った一方、スーパー 3 社は 402 億円で平成 16 年以来の 400 億円超えを記録した。（各種商品／帯広）
・売上高は対前年同期比 88.37%。大口取引先の買い控え等を主因に減少した。青果小売の納品部門は飲食店の営業自粛で極めて厳しい状況が続いている。（野菜・果実／札幌）
・除雪が追い付かず臨時休業した日があったほか、道路事情の悪さも重なり来客数は昨年より落ち込んだ。コロナの影響もあり売上は昨年比減少となった。（鮮魚／釧路）
・初セリから商品の入荷が悪く、客入りも寒さの影響で奮わず売上は減少した。観光客はほぼなく、土産店・ホテル等の売上は前年比 10 分の 1 程度。来月も雪まつり等の行事がなくなったことから、大変厳しい状況が続くと思われる。（各種食料品／札幌）
・1 月原油価格は前月から引き続き上昇基調で推移。安値市況が続く一部激戦地では、地場中小零細企業は厳しい経営状況に直面している。コロナ禍で道内でも年末年始の往来自粛等を求められたため、車の動きが鈍く、ガソリンは大幅な減販となった一方、厳しい寒さに見舞われたことで灯油の消費量は大きく伸びた。依然として景気の先行きが不透明な中、ガソリンの更なる需要減が懸念される。（燃料／全道）
・例年にない低温と降雪量で除雪関係車両の稼働が非常に多くなっており、軽油の売上は前年を大きく上回った。家庭用灯油は低温の割には思ったほど増加していない。売上高は、市況価格が前年比 10 円 / ℓ 程安く金額的には前年並み。（燃料小売業／稚内）
・大手・中小ともに昨年並みの業績を確保できる見通し。コロナ収束が不透明な中、スマート農業や展示会の WEB 開催など販売活動の変革を模索している。（農業用機械器具／全道）
・全道的には、コロナ対策で空気清浄機や加湿器が売れたが、小さな店まで在庫が回らず、大きな売上アップにはつながらなかった。道央圏は大雪の影響でアンテナが壊れ、工事に追われた店が多く見受けられた。（電気機械器具／全道）
・コロナ感染拡大の影響で、自転車製造関係企業が集積している中国河北省がロックダウンし、自転車の入荷に影響が生じている。自転車シーズンを前に、需要に供給が追いつかないことが懸念される。（自転車・自動車／全道）
・地元百貨店の 12 月売上高は前年同月比 3.6%減の 5 億 7,918 万円。コロナの影響で衣料品が引き続き苦戦している。1 月共通駐車券の利用は前年同月比 71.5%、買物共通バス券は前年同月比 51.5%に減少と依然厳しい状況が続いている。（帯広市・商店街／帯広）
・道内中小 IT 企業は従来 3 つの経営課題を抱えている。①技術者の離職防止と必要人材の採用・確保…即戦力として活用できる人材を確保するため、採用基準を明確にして厳選採用しているが、思うような人材を確保できていない。高スキルの技術者は人気が高く年収も上昇しており獲得が難しい。②営業力強化による開発案件の獲得…現状の顧客内でのシェアの拡大や新規の案件確保のためには営業力の強化が必要だが、要求スキルを有する営業成員の確保自体が難しい。コロナ感染防止で顧客との営業面談が十分にできていないことも案件獲得に至らない原因になっている。③ AI や IoT、クラウド化に関する技術力の強化…DX 化に伴い AI 等に関する高度な知識やスキルを持つ技術者の有無が事業拡大のキーポイントになる。年々高齢化する既存技術者への教育や育成も思い通りにはできていない。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・コロナ禍で建設業界への就職希望者増を期待していたが応募は全くない。（塗装工事／札幌）
・公共工事に関しては、年度末も迫り、来年度の物件に期待して準備をしている状況。民間工事は、来年度の予算取りという形で予定物件の見積もりを取る動きが出てきているが、価格面では厳しい状況にあると考えられ、物事が決まるためには多少時間を要すると思われる。電力系の工事は昨年比で確実に減少してきている。電気工事業は他の業種に比べてコロナの影響が少ない方だが、受注量の減少やコロナ対策の他に人員確保や人材育成、安全意識や技術力の向上など、時間がかかり継続的に利益を確保していかなければ取り組めない課題が山積している。（電気工事／全道）
・大晦日から 1 月 5 日まで氷点下の気温が続いた影響で、数十件の凍結解除依頼があり、組合員各業者は連日対応に追われた。市の除雪業務も担っている組合員は特に大変だったようだ。（管工事／名寄）
・配車手数料は減少しているものの、宅配関係の運送収入がアップしているため全体的に売上は落ちていない。（一般貨物自動車運送／全道）
・この時期、北海道は元々貨物自体が少ないが、コロナ発生から約 1 年が経過した今も状況は上向いていない。降雪量が少ないため除排雪業務の稼働も減っている。今年は除排雪ダンプ数が少ない一方、他は新幹線のトンネル工事に関わっているため、コンスタントな稼働を維持できている。（一般貨物自動車運送／小樽）
・農産物の荷動きは 12 月と同様低調に推移し、前年比で減少している。価格の下落に加えてコロナ禍で外食産業の消費が落ち込んだことが要因と思われる。一般雑貨や日用品についても一部品目を除いてコロナの影響を受けており荷動きは良くない。工業用品は全般的に不調だった。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比 38.7%減少。乗務員数は前年同月比 15.5%減少。12 月分チケット取扱高は前年同月比 37.7%減少。（一般乗用旅客／旭川）